

日本豊受自然農に静岡県中遠地区青年農業士会が視察

未来の農業へ希望 視察大成功

御古菌が農業転換への救世主

12月6日、日本豊受自然農(本社静岡市南町)は、静岡県中遠地区青年農業士会のメンバー9名と静岡県中遠地区農林事務所生産振興課の鈴木課長と丸山さん2名の計11名の視察を受け入れ、その模様を「よまぎTV」とインスタライブで生中継された。今回の視察は「日本豊受自然農を訪問したい」03農家が加工品などの六次産業化の取り組みを学ばせたい」という青年農業士の熱意から実現したものだ。



由井代表

農家は加工し付加価値を 発信力も大事と由井代表

バスで到着した一行が食品加工棟で迎えた由井代表。最初に今年のアグリビジネス創出フェアでの自身の15分のプレゼン動画を上映。映像では昔ながらの6百種以上の土壌菌を自社培養で製造している

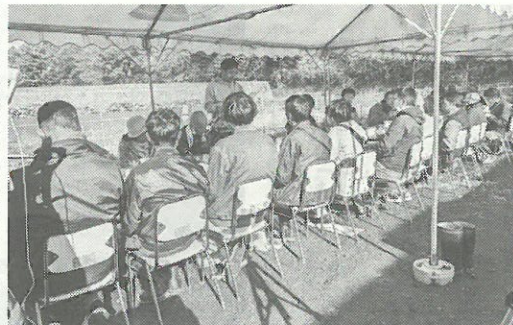


農水省主催のアグリビジネス創出フェアで由井代表が行ったプレゼンの録画を見る参加者

る豊受御古菌を活用し、自然農と六次産業化の取り組みを詳しく紹介して

視察参加者の感想

今回参加した方の感想が寄せられたのでそれを紹介する。
▽戸塚さん(会長・主要栽培作物 水稲) この度は青年農業士中遠支部の視察研修のために、お時間を作っていただきありがとうございます。自分もインスタライブを見学させていただき、宣伝することを大切に感じました。また、眠っているアイデアがとも良かっただけで、お昼ご飯も用意いただきありがとうございます。静岡県東部と西部で距離は離れていますが、これを機に中遠支部青年農業士会と今後もつながりを持っていただけたらと思います。次世代を担う農業者としてこれから頑張っていくと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。
▽Aさん(副会長・茶) 貴重な体験でした！由井さんの情熱、行動力、技術、そして圧倒的な生産力に驚かされました。有機栽培のイメージが覆され、農業にはまだまだ知らないことが多くあります。安全な食品作りを心がけていきたいです。また、加工場での見学も大変勉強になりました。今後の取り組みも参考にさせていただきます。



昼食を兼ねた交流会



生姜畑インスタライブ「みんなのTV」生中継を見学

た。自然農では御古菌を活用した土作りと種の家採取を重視し、畑の肥料を無駄なく生かしていくことにより、安心して食べられる食料を自然農・大規模農業で提供することがビジョンであること。伊豆の国市など地元自治体と連携し、耕作放棄地再生など地域への貢献を意識して展開していること。更に人材育成では働く人の心根が大事。加えて発展させていくには自らの農業の取り組みや特長を農家自身も情報発信してPRすることが大事と熱く語る。普通農家の発行する力タロクでは一次産品の農

産物のPRがメインだが視察で配布された豊受の商品カタログでは、一次産品はほとんど掲載されず、2000の加工品がページのほとんどを占めている。農林事務所鈴木課長は驚かされた。豊受の代表が解説。豊受農業部の社員が自然農での工夫や栽培面での苦労話を披露した。最後に生姜を使った料理を以て生中継した。最後は生姜畑の横田美沙さんが現場でクッキングしながら生中継した。調理には東日本大震災でも活躍したアウトドア用ロケットストーブを使用した。見学していた皆さんは毎週生中継制作しているバイタリティーに驚き

で、全てに愛を感じました。昔、松下幸之助さんが言われた言葉で、「人間を作ったのは神様。合わせて電機も作ってあげよう」と言われたのを、まさに貴君さんはやられていたと感じました。更に生きた知識、鋭い見識、ユーモアのセンス全てが完璧で、貴君さんの下で働いている人たちが羨ましかったです。貴君さんの考え方にはまだまだ同感で、この世界は人間の間には見えぬものがある。形作って、その中で農業とか食品に非なる重要なファクターになる事は間違いありません。今、世界ではオーガニック市場が賑わっている。SDGsだとかGAPだとか色んなものがあっていますが、貴君さんが言われたように日本では40年前から265年間も持続可能な農業、生き方をしていた民族なのですよ。今まさに昭和50年代の経営者たちと世代交代が始まっています。

が、加工した付加価値を増やすことや、農業のビジネスの仕方について深く意見交換ができました。
▽Eさん(トマト) まずは先日は視察させていただきありがとうございます。施設の見学から、取り組みの説明、インスタライブの見学、昼食を兼ねた意見交換と長時間に渡り対応いただき、とても刺激になりました。今回、視察させていただき、施設のことや会社と地域との関係、在来種を大切にしていること、食の安全を守ること、食へのこだわり、信念を伝えるための仕組み作りです。多くの従業員さんやボランティアさん、手間のかかる農業をビジネスとして成立させるために6次産業化やレストラン経営をすることで利益率を高めること。オンラインストアでの販売や内容満点のインスタライブなど自分たちの作っているものをアピールしてい

と、地域の農業者を巻き込んでより大きな規模で生産していることなど、短時間の視察の間でも多くのことに真剣に取り組んでいることが伝わってきました。
私には施設栽培でトマトを栽培しているのが普通の農業とは真逆の自然農に触れることができた。そして作物の品質や収穫量を追うこと以上に、もっと勉強すべきことがあると気づきました。食と健康が隣り合っていること、それは比べて農業と健康は少し遠い位置にあるように感じています。これからは少し近づけていけたらと思います。
▽Gさん(トマト) 先日はありがとうございます。心強い刺激をいただきました。すぐに衝撃を覚えました。ささいな事をやっているかと思いましたが、ミニトマトの自然栽培、種取り、独自品種の話も聞き、夢を実現していくのだなと思いました。